

Libella りべら

持続可能な未来をみんなでつくる

VOL.165
2024.6

2023年度
あおぞら財団年次報告

2023年度



にしよど
音楽祭
2023



りべら VOL.165 2024.6

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

あおぞら財団年次報告2023年度

- あおぞら財団の2023年度を振り返る.....1
- 柱① にしよど音楽祭2023.....3
- 柱① 大気汚染の実態を伝える映像を作成...5
- 柱② エコミューズの活動.....7
- 柱② 教育プログラムづくり.....9
- 柱③ リアルでの国際交流を再開...11
- 事業一覧/財務状況.....14
- ご支援のお礼/賛助会員数...15

2023年度 ご支援の御礼

お助けボランティアとしては、計4人の皆様からご支援いただきました。
インターン生は1人を受け入れました。
あおぞら財団の活動は多くの方からのご寄付・ご寄贈によって支えられています。
皆さま、本当にありがとうございました。

お助けボランティア (敬称略・順不同)

- 渡辺 哲敬 岡崎 久女
- MOKU 山下 晴美

インターン生 (敬称略・順不同)

- 榎木 涼(大阪経済大学)

賛助会員

● 2023年度(2024年3月末時点) (件数)

個人	89
学生	1
法人	13
団体	8

寄附・寄贈者 (2023年4月~2024年3月 敬称略・順不同)

- | | | |
|----------------------|---------------------|---------------------|
| 新井 真 | 大門 信也 | 真川 順子 |
| 石塚 裕子 | 武田 明 | 松村 暢彦 |
| 1Fあおぞら市のみなさん | 谷 智恵子 | 李 力 |
| 一方井 誠治 | ちゃか | 南区公害患者と家族の会 |
| 植田 和弘 | 津留崎 直美 | 宮本 憲一 |
| 内田 寛 | TK.Nara | 村松 昭夫 |
| 大阪狭山市
企業人権協会 | TERA Energy株式会社 | 森山 正和 |
| 萩野 直路 | 榎 章夫 | 山岸 公夫 |
| 小田 康徳 | 中西 美穂 | 山崎 圭一 |
| 甲斐 雅裕 | 中村 昌史 | 山崎 スチール株式会社 |
| 柏原 愛子 | 中山 裕二 | 山崎 光信 |
| 片岡 直樹 | ながゆ | 山崎 義郷 |
| 金谷 邦夫 | 西田 清紀 | 鎗山 善理子 |
| 鎌形 浩史 | 西村 弘 | 吉田 巖 |
| 北泊 謙太郎 | 西淀川公害患者と
家族の会 | 吉田 長裕 |
| gooddo支援金
グッドウ(株) | 新田 保次 | 吉村 良一 |
| 切刀 恵美子 | 八丸 久美子 | 公益財団法人
淀川勤労者厚生協会 |
| 久保 はるか | 姫島小学校 | 寄付者ニックネーム Y |
| 酒井 健一 | 一般社団法人
大阪ファルマブラン | 脇田 武利 |
| 澤田 佳宏 | 福島区公害患者と
家族の会 | (株)浅羽計器 |
| 嶋田 章 | 藤江 徹 | 浅井 真二 |
| 清水 万由子 | MOKU | 白神 加奈子 |
| 資料館募金箱 | | その他、匿名2名 |



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)
西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。(環境教育等促進法にかかる「体験の機会」の場)認定施設

開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00) / 要事前電話予約
※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

● **賛助会員** 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。
【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、
法人・団体:年一口10,000円

● **会費・寄附の振込先**
【郵便振替口座】記号・番号:00960-9-124893 / 加入者名:あおぞら財団
【ゆうちょ銀行】金融コード:9900 / 店番:099 / 預金種目:当座
/ 店名:0九九店 / 番号:0124893 / 名義:あおぞら財団
【三菱UFJ銀行】歌島橋支店 / 普通 / 3728858 / (財) 公害地域再生センター
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

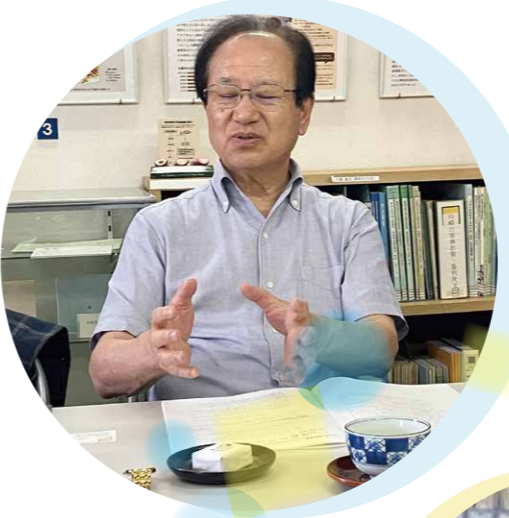
今回のリベラは「あおぞら財団年次報告2023年度」。あおぞら財団の事業に深く関わっている新理事の清水万由子さん、新評議員の福田留美さんと村松理事長にあおぞら財団の2023年度について振り返ってもらいました。



福田 留美さん
子育て支援のNPO法人「にしよどにこネット」代表理事。あおぞら財団評議員。



清水 万由子さん
龍谷大学政策学部教授。あおぞら財団理事。



村松 昭夫
弁護士。西淀川大気汚染訴訟弁護団の一員。大阪アスベスト弁護団団長。あおぞら財団理事長。

あおぞら財団との関わり

福田に「こネット」として、防災やみてアトなどに関わっている。西淀川はいろんな団体が団体同士の垣根を超えて、地域にとって必要とされる事業をやっているという思いで活動している。地域の人と共に一緒にやっていると姿勢をあおぞら財団に学ばせてもらっている。

村松 私は公害裁判の時から、西淀川や財団にずっと関わっている。私自身も学ばせてもらっている。環境再生や地域再生というワードを作るといイメージが強いが、再生というのは人のつながりを生むことでもある。あおぞら財団だけでなく、いろんな団体、地域の方々と一緒にやっているということが大きい。設立当初から比べると広がりもあるし、深みも出てきているというのを実感している。

清水 2022年度から西

淀川でゼミ活動を実施している。最初、公害なんて自分と無縁だと思っていた学生達が、公害患者さんに話にショックを受け心を動かす。そこから周りの人に伝えたい、知ってほしいという気持ちになり、どうやって？誰に？という部分をゼミの中で議論したり、他の地域の事例を研究しながら、すすめている。

最も印象的だった事業

清水 最も印象的だったのは「野外音楽フェスティバル in 矢倉緑地」。矢倉緑地は様々な経緯があり、ごみの埋め立て地になったり、地盤沈下で沈んだりしたが、大気汚染の改善のために緑地を整備した。西淀川の歴史を背負ったような土地である。よい天気、600人も人が集まり、たくさんの方も出演された。いろんな苦難を経て、ここにこれだけの人が集まって、わいわいしていることが実現しているとても感慨深かった。歴史を少しでも知ってくれたら、私の感動を共有できるのになと思った。

福田 にしよど親子防災部に関わっている。昨年度は「にしよどおやこぼうさいブック改訂版」を発行した。普段できてないことは

災害時にももちろんできないし、地域が抱えている課題が如実に出てくる。女性の災害時の課題は、東日本大震災、熊本地震を経て、なかなか解決に結びついていない。親子防災の中で女性視点の防災のエッセンスを、女性にとって必要なこと、過去の災害の時の困った事例として入れた。にしよど親子防災部としては、防災かるた大会、にしよどおやこぼうさいブックも5年で改訂して、新たなものを作った。作って終わりではない活動を財団さんと一緒にさせていただいてよかった。

メッセージが強くなっている。もともとの根っこにある大切にしたいこと、さらに知ってほしいことがあるということをもっと言ってもらえたらと思う。

清水 イベントなど地域づくりの活動を通して、あおぞら財団が西淀川にとって大事な存在だと思ってもらえるようになった。あおぞら財団は財政面で、様々な工面をしながら続けている。地域の人に支えてもらえるようになってほしい。

村松 福田さんのように、地域で様々な活動をしている方があおぞら財団を頼りにしてもらっているという話が聞けてよかった。地域のみなさんが、公害患者さんの思いを含めて、公害を克服した経験を学べる場として作った。今後は地域とのつながりを広げないといけないが、財団の原点を地域の人と共有できたらと思っている。

あおぞら財団への期待

福田 西淀川公害のことを深く聞いたことがなかったが、聞いておきたいと思った。現場で息づかいを感じる生の体験が大事。外から評価が高いということを地域の人も知ってもらいたい。あおぞら財団はイベントの事務局をやっている財団というイ

資料館に西淀川公害に関する資料を多数所蔵しており、資料館館長の小田先生が踏み込んで資料集作成に取り組んでいる。それをきっかけにして企画を作るのが今年、来年に向けて、一つのテーマになるのではないかと思う。

是非、財団を育てていただきたい。

2023年度のあおぞら財団の事業一覧はP14に記載しています。



あおぞら財団2023年度振り返り座談会
日時：2024年5月7日13:00～14:00
場所：西淀川・公害と環境資料館エコミュース
(清水万由子さんはZoomで参加)

「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

西淀川区制100周年プロジェクト

2025年に区制100周年を迎える西淀川区では、同年を一つの節目として、過去を振り返りつつ、未来を見据えた取り組みをスタートさせている。その一環として、区内の芸術・文化活動に関心を持つ市民やグループが参加する実行委員会を立ち上げ、「にしよど音楽祭」プロジェクトをスタートさせており、事務局として「あおぞら財団」も参画している。



野外音楽フェスティバル in 矢倉緑地 (2023.11.3)



音楽のチカラでまちを元気に！ にしよど音楽祭2023

第一弾

夏休みファミリーコンサート
ピアノカの魔術師

夏休みの8月5日、西淀川区民会館にて、ピアノカの奏者「ピアノカの魔術師」を招き、親子で楽しめるコンサートを開催した。当日は158名が来場し、演者と会場が一体となる、魅力的なステージが展開された。最後は、皆で音楽に合わせてダンスを踊り、会場は参加者の笑顔であふれていました。



夏休みファミリーコンサート ピアノカの魔術師 (2023.8.5)

第二弾

ふるさと西淀川PR大使
庄野真代コンサート

2023年11月5日、みてアート2023のクロージングイベントとして、西淀川区出身でふるさと西淀川PR大使でもある歌手・庄野真代さんを招き、大阪府立淀商業高等学校講堂を会場としてコンサートを開催しました。当日は600人を超える来場があり、地元トークに親しみを感じつつも、生の本物の音楽に触れ心躍る時間を過ごすことができました。公演前には、淀商業高等学校生徒によるYODO BRASS、西淀川区が誇る吹奏楽団アンサンブル・ウペボと庄野さんとのコラボ演奏もあり、音楽が持つチカラとともに、西淀川区の魅力を共有する機会となりました。
にしよど音楽祭は2024年も続きます。どうぞご期待！



ふるさと西淀川PR大使 庄野真代コンサート (2023.11.5)



事務局長・研究員
藤江 徹

第二弾

野外音楽フェスティバル
in 矢倉緑地

西淀川区の西の端に位置し、大阪市内唯一の自然海岸である矢倉緑地。公園として整備はされているものの、「もっと活用しよう！」と今回、はじめて野外音楽フェスティバルを開催した。出演者を区の広報誌や主催団体のホームページ等で募集したところ、西淀川ゆかりの多様な方々が応募いただき、11月3日当日のステージには12組のアーティストに登壇いただいた。快晴の下、700人を超える参加者が、草原に座って、響き渡る音色や歌声を楽しみ、キッチンカーで食べたり、拍手を送ったりして盛り上がりました。



河野 智子さん
吹奏楽団アンサンブル・ウペボ 団長
にしよど音楽祭実行委員長

にしよど音楽祭実行委員長にご指名をいただき、恐れ多いやら嬉しいやら、複雑な気持ちでお引き受けしたのが、遠い昔のような、ついこの間のような…！ 初年度となった2023年は、コロナ禍を経てようやくお招きできた「ふるさと西淀川PR大使」に庄野真代さんのコンサートをはじめ、音楽祭を通じて、年齢も性別も経験もプロアマの垣根も超えて、様々なパフォーマンスを皆様にお楽しみいただくことができました。出演者の方々の素晴らしさはもちろんのこと、ご来場の方々のノリのよさやあたたかさ、この街のとっても素敵なおところですね！2024年も、にしよど音楽祭をどうぞお楽しみに！そしてその先も、この街に、また、皆様の心に、たくさんの音楽が響き続けますように♪

協力者からひとこと

にしよど音楽祭情報はこちらから



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム

公害患者はどのような被害を受けているのか？大気汚染の実態を伝える映像を作成

研究員
谷内 久美子

公害行政関係者への啓発を目的とした映像を

公害健康被害補償法（公健法）の施行から約半世紀が経過しました。公健法における大気汚染公害の被認定者数は約2万8千人（2022年12月末）、若い被認定者は30代後半です。公害は「終わった」ものではなく、その被害と向き合っている方々が多数います。

2021年度、2022年度には、環境省の受託を受けて、公健法被認定者に対してヒアリング調査を行い、療養生活の実態を把握しました。2023年度はこれらの調査をふまえながら、大気汚染による公害

健康被害を受けた被認定者に対してインタビューを行い、公害行政をはじめとする関係者に対して啓発に用いることのできる映像資料を作成しました。

取り巻く状況が異なる3人にインタビュー

映像を作成するにあたり、取り巻く状況が異なる3人にインタビューを行い、その様子を撮影しました。
一人目は四十代の女性。公健法の指定地域の1つである吹田市南部で生まれ育ちます。豊かな時代と言われた1980～1990年代に、

物心ついた頃から公害病の気管支ぜん息に苦しみ、周囲の理解も得られない中、我慢するのが当たり前の子どもの時代を送りました。
二人目は六十代の男性。大阪市在住で、24歳で気管支



ぜん息の診断を受けました。家業である鋼材販売業に従事していましたが、健康被害により思うように働くことができませんでした。さらに、気管支ぜんそくの続発症として難聴に。現在は、公害を伝える語り部活動をしています。
三人目は七十代の男性。子どもの頃はガキ大将で健康そのもの。中学卒業後、「金の卵」として



インタビュー映像一覧

語り手	タイトル	二次元バーコード
40代女性	幼いころから公害病と向き合い続ける	
60代男性	公害病に聴力まで奪われて	
70代男性	公害と闘いながら、高度成長期を生き抜いてきた	
公害健康被害補償法被認定者インタビュー再生リスト		

九州から大阪に働きに来ましたが、大気汚染により気管支ぜん息になってしまいました。仕事は建築現場で重機のオペレーター。公害病による被害は仕事や人間関係、家族にも及びました。
それぞれの方に、どのような公害被害を受けたのか、公健法や環境行政、未来に向けての思いを語っていただきました。患者さんの中には、被害を語ることでその苦しさを思い出し、辛い思いをされた方もいます。それでも、自分の

被害を語ることで、公健法の重要性を広く知ってもらいたい、大気汚染被害を今後起こさないようにという思いから語ってくれました。

映像を多くの人に見てもらいたい

今回作成した公害患者のインタビュー映像は環境省のYouTubeで公開されています。

公健法を推進していく公害行政関係者、公健法の補償の原資である自動車重量税の納税者や汚染賦課金の納付企業、これからの社会を作っていく学生や若い世代の方々など、多くの方々に視聴していただけたらと期待しています。公害被害を共感的に理解することは、未来の青い空を守るための手助けにつながるのではないかと思います。



西淀川・公害と環境資料館エコミュージズの資料を活用

協力者からひとこと

大気汚染公害が発生してから半世紀以上が経ち、ようやく空気が良くなってきた。公害健康被害補償法は、医療費や生活費の補助を通じて大気汚染による健康被害を受けた患者の生活を支えています。公害患者はみんなしんどいと思いをしている。今後、子ども達がぜん息にならないように、もっと空気をよくしてほしい。この動画が、公害問題の深刻さと補償法の必要性を伝え、環境改善に役立つことを願っている。



山下 明さん
西淀川公害患者と家族の会 会長

広告

調理後の油を無料で回収します！

笑顔で回収いたします

50年以上の実績で、一滴残さず再び資源にリサイクル。資源循環でSDGsに貢献します！

まずはお気軽にお電話ください！
TEL 06-6411-3457

@hamadakagaku

● Hamada Kagaku ●

公害の経験から
学び、未来を創る
市民を育てる

西淀川・公害と環境資料館 (エコミュージーズ)の活動

研究員
鎗山 善理子

本活動では、西淀川・公害と環境資料館の日常的運営の継続、そのために資料の整理を進める、資料館を地域のの人に知ってもらえるよう企画展を開催する、所蔵資料を広く知ってもらうため資料集の作成をおこなうことをめざして取り組んできました。

資料の整理を進めました

2023年度に目録化した資料の点数は、大目録が74点、細目録は108点です(累計数は、大目録2,962点、細目録61,494点)。
所在確認が必要な資料がありますが、現在、できうる限り



資料提供者に話を聞く小田康徳館長

の目録作成作業は終えることができず、あとは新規で受け入れたときの目録作成、雑誌やニュースレターの整理が課題として残っています。



企画展「昔の西淀川区の川と水辺の風景～大野川と中島大水道～」みてアート2023

みてアートの企画展 昔の西淀川区の川と 水辺の風景～大野川と 中島大水道～を開催

11月4～5日におこなわれた「みてアート2023」にエコミュージーズが拠点として参加し、企画展「昔の西淀川区の川と水辺の風景～大野川と中島大水道～」を開催し、309人が来館しました。

資料集作成に向けて 勉強会と編集委員会 を重ねる

資料集作成に向けて、エコミュージーズ所蔵の資料を検討する勉強会を2021年10月から月1回のペースで行っており、2023年度は、全部で12回開催しました。専門家からなる「資料集編集委員会」は計6回開催しました。メンバーは小田館長、佐賀朝氏(大阪公立大学教授)、松岡弘之氏(岡山大学准教授)です。



資料勉強会で古地図をみんなで見ている

各地の患者会の 資料の受入れ

2023年度は、2つの患者会からの資料を受け入れました。一つは、大阪にあります「福島区公害患者と家族の会」の資料です(2023年9月19日受入)。機関誌「あおぞら」や総会の議案書などを中心に、福島区患者会が長年活動してきたことを示す様々な資料が多く含まれていました。もう一つは、名古屋で活動していた「南区公害病患者と家族の会」の資料です(2023年11月30日受入)。総会議案書や定期刊行物、各種周年記念誌などを寄贈いただきました。

川勤労者厚生協会の所蔵資料の整理業務を過年度に受託して実施していましたが、コロナ禍により病院への立ち入りが出来なくなり、一時業務を休止していました。2023年度に本業務を再開することができました。2023年度は旧役員室の資料を835件、西淀病院図書室の資料を272件目録作成を行いました。

(公財)淀川勤労者厚生協会の所蔵資料整理の再開

西淀川区で医療機関等の経営、運営をしている(公財)淀



エコミュージーズ活動報告書

館長から ひとこと

近代工業都市が生み出した様々な公害、なかでも大気汚染公害は、日本の各地でたくさんの人びとに大きな苦しみを与えてきました。西淀川・公害と環境資料館(エコミュージーズ)は、大阪・西淀川区でたまたかわれた大気汚染公害の歴史を将来に伝え、考察してもらうために設立されたものです。
住みやすい都市をつくっていくためにも大気汚染の歴史を語る原資料を知っていくことは大事になっています。エコミュージーズは、そうした人びとの力になることを願っています。



小田 康徳さん
エコミュージーズ館長

広告

デイサービスセンター
あおぞら苑





あおぞら御膳 あおぞらの湯

【お問い合わせ】
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
URL : <http://aozoraen.com/>
運 営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数:1日25人

2006年10月1日にデイサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがデイサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

2023年の研修 この瞬間がすごかった ベスト3 /

BEST 1	<p>龍谷大学政策学部清水ゼミ×あおぞら財団活動報告会 (7月23日)</p> <p>1年間の西淀川でのゼミ活動の報告と、ゼミ生達が関わった西淀川公害患者と家族の会の方々のインタビュー映像のお披露目「患者さんの生の声を聞くことで、公害の辛さを知ることができた」(学生)、「苦しみを理解してくれることが嬉しい」(患者会)といった意見を交換しました。</p> 
BEST 2	<p>環境省職員「環境問題史現地研修」(7月27日～7月28日)</p> <p>2023年度は8回目。最初に、参加型の教材であるフォトランゲージ「西淀川大気汚染公害」、「ロールプレイ あなたのまちで公害が起きたら」にグループ取り組んだ後に、公害患者や弁護士や企業担当者のお話、フィールドワークを行いました。環境省職員の方々は、このグループワークに自分の仕事にも重ねて考えて真剣に取り組んでくれました。</p> 
BEST 3	<p>環境再生保全機構 研修受入れ (11月16日～11月17日)</p> <p>環境再生保全機構は、公害健康被害補償法の補償費や医療費の給付をはじめとした役割を果たしています。2人の公害患者や弁護士、被告企業の訴訟担当者のお話を聞いてもらったほか、フィールドワークを行いました。「自分が携わっている補償費の給付業務が、どのように役立っているのかわかった」、「被告企業にも被害者に寄り添う人がいたことで和解につながった。私も多角的な視点を持ち続けたい」といった感想がありました。</p> 



協力者からひとこと

現在の緊急課題である気候変動の原因や構造を理解しつつ未来を創造するにあたり、公害という開発問題と人々の運動を学ぶことは必須です。このハンドブックは待たなしに起こるさまざまな災害とも関連づけて、気候変動・公害・災害を自分ごととして捉えるお手伝いをしますので、ぜひ使ってみてほしいと思います！



近藤 牧子さん
開発教育協会

3つの教育プログラムを開発

この教育プログラム開発は、地球環境基金を受けて3カ年

今回、市民がSDGsの課題解決に取り組むことができるよう、自律的・能動的に行動できる市民を育てる教育プログラムを開発しました。プログラム開発にあたっては、「誰一人取り残さない」というSDGsの原則を柱として据えています。

公害関係者にインタビューを行いオーラルヒストリーとして、動画やテキストにまとめて

公害経験から課題解決の行動に向けた市民教育プログラムを開発

で実施しました。活動は大きく分けて3つあります。
1 気候変動×防災×公害を学ぶ教育プログラムの開発
あおぞら財団が今まで培ってきたESD(持続可能な開発のための教育)の経験や知見を活かし、気候変動、そして防災について考えるプログラムにしました。成果は「公害×気候変動×防災ハンドブック」としてまとめています。3月末には教材の体験会を行いました。

普及・発展に向けて

本活動では、多様な専門を

から読み解く」にまとめてい

ました。オーラルヒストリーの作成に当たっては、龍谷大清水ゼミの協力を得ています。
3 「誰一人取り残さない」ための教育
環境・公害教育に人権教育の視点を吹き込むことを目的として、公害被害・被差別当事者のお話を聞き、それに対して「誰一人取り残さない」教育のために必要なポイントを整理しました。成果は冊子「誰一人取り残さない教育のために」公害の経験を人権教育の視点から読み解く」にまとめてい

公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

誰ひとり取り残さない！
気候変動を構造的にとらえ
未来につながる教育プログラムづくり

研究者 谷内 久美子

持つ多くの外部の専門家や大
学ゼミの協力を得て、市民がSDGsの課題解決に向けて自律的・能動的に行動できる市民を育てる教育プログラムの開発を行うことができました。教材の普及・発展に向けて、関連団体や教育機関との連携、教材の改良とフィールドバックといった取り組みを継続していきたいと考えています。



西淀川公害オーラルヒストリー



冊子「誰一人取り残さない教育のために」



公害×気候変動×防災ハンドブック

詳しくはこちらから



気候変動ハンドブック
西淀川公害オーラルヒストリー
誰一人取り残さない教育のために

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中 /

～「いのちの平等」をめざして～
差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

- ・西淀病院
- ・のぞと診療所
- ・千北診療所
- ・ファミリークリニックあい
- ・姫島診療所
- ・ファミリークリニックなごみ
- ・介護老人保健施設よどの里
- ・在宅総合センターらくらく
- ・社会医学研究所

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設

看護師・介護職 募集中!

広告



公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp

公害経験を伝える国際交流

お久しぶりです&初めまして リアルでの国際交流を再開

事務局長・研究員
藤江 徹

詳しくはこちら



あおぞら財団では、日本の公害経験を海外に伝え、交流し、公害・環境問題を一緒に解決していくために国際交流活動を行っています。新型コロナウイルスの影響で3年間、海外との往来が困難な状況が続きましたが、2023年度はリアルでの国際交流を再開しました。



日中環境問題サロン2023にて(2023.12.17)

お久しぶりです!
中国から環境NGO
メンバー4名が来日

コロナ禍にオンラインで顔を合わせていた中国環境NGOメンバー4名が満を持して来日。2023年12月17〜19日までの3日間、西淀川公害についての講義やフィールドワーク、池田市の環境授業の見学、「日中環境問題サロン2023」では、それぞれの取り組みを報告いただきました。また、環境だけでなく防災活動も行っているとのこと、西淀川区役所にて防災担当者の方から話を伺い、神戸市の「人と未来防災センター」を見学に行きました。

お久しぶりです!
ベトナム再訪

これまでもつながりのあるベトナムの環境NGOを再訪し、コロナ以降の活動について話を伺いました。



環境NGO「LIVE&LEARN」を再訪(ハノイ)

ホーチミン市天然資源環境大学にて

ハノイにて Tran Huy Anh氏と

初めまして!
インド

近年、大気汚染が問題になっているインド・デリーを訪問し、環境問題に取り組む弁護士事務所LIFEにてお話を伺いました。

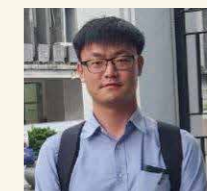


世界遺産タージマハールにも大気汚染の影響が

デリーにてRahul Choudhary氏と



日本は、1950〜60年代から産業公害問題に取り組み、1990年代からは地球温暖化問題に対処し、近年では海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて段階的に取り組んできました。一方、中国は急速な発展を遂げる中で、地域の環境問題とグローバルな環境問題の解決を同時に進める必要があります。住民との距離が近いNGO団体は先進国の経験を参考にしつつ自らの道を模索し、さらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



馬 建さん
龍谷大学社会科学研究所

広告

ぜん息・COPDに関する 電話・メール相談室

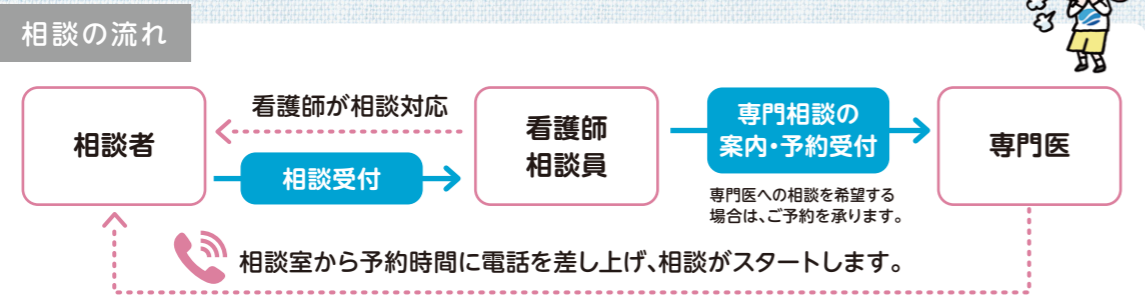
環境再生保全機構が運営する「ぜん息・COPD電話相談室」は「ぜん息・COPD」に特化した内容を無料で相談できるものとなっており、全国から毎年1000件近くの相談を受けています。今使っている薬やこれからの治療など、ぜん息、COPDに関する心配ごとやお悩みごとについて、専門医と看護師や保健師がお答えします。ご本人様はもちろんご家族の症状まで、なたでもお気軽にご相談いただけます。電話だけでなくWebでの相談もできますので、ぜん息やCOPDについて疑問や不安に思っていることなどがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。



フリーダイヤル：0120-598014 (こきゅうはい〜よ)
受付曜日・時間：月〜土曜日(祝日・年末年始を除く) 10:00〜17:00

ぜん息・COPDに関する電話相談室

小児ぜん息・成人ぜん息・COPDの専門医や看護師が無料でお答えします。ぜん息・COPDに関する心配ごとや悩みごとについて、電話やメールでご相談いただけます。専門医による電話相談日はホームページ等でお知らせしております。あらかじめ電話で予約をお取りいただくと、専門医相談日の予約時間に相談室からお電話いたします。



詳しくは |
またはこちらから
<https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/service/tel.html>



環境再生保全機構は、環境問題に幅広く対応するための政策実施機関として設立された環境省所管の独立行政法人です。環境再生保全機構では **様々なパンフレットも全て無料で配布しております**。提供しているパンフレットの一覧はホームページからご覧いただけますので、少しでも気になるパンフレットがあればお電話もしくはホームページからお申込みください。
<https://www.erca.go.jp/yobou/pamphlet/form/index.html>



独立行政法人 **環境再生保全機構** TEL:044-520-9504(予防事業部代表) <https://www.erca.go.jp/>

2023年度 あおぞら財団事業一覧

1 「環境・福祉・防災・文化・生業」の視点から、西淀川の地域再生に取り組む

- 1. 地域再生:地域資源の活用によるまちづくり(自主財源)**
- 2. 交通再生:交通マネジメントセンター機能の強化**
 - 1) 西淀川における「人にも環境にもやさしい地域交通まちづくり」の推進(自主財源)
 - 2) 自転車を活かしたまちづくりの推進(受託元:(一社)市民自転車学校プロジェクト(CCSP)、(株)都市空間企画研究所)
- 3. 安全再生:防災まちづくりの推進**
(受託元:西淀川区、助成元:JR西日本あんしん社会財団、自主財源)
- 4. 健康再生**
 - 1) 地域での呼吸ケア・リハビリテーションの普及(助成元:西淀川公害患者と家族の会、自主財源)
 - 2) 令和5年度大気汚染による公害健康被害に係る映像資料作成業務(請負元:環境省)
- 5. 交流再生:地域の交流(コミュニティ)再生・交流拠点の活用**
- 6. 文化再生:西淀川の資源を活かした環境文化をつくる**
 - 1) みてアート(企業等からの協賛金)
 - 2) 大阪市西淀川区における新たな地域コミュニティ支援事業(街角企画株式会社、有限会社OM環境計画研究とともに受託、請負元:大阪市西淀川区)

- 3) 新型コロナウイルス対応緊急支援助成(休眠預金)
- 4) 日本環境会議(JEC)の会員・会費管理の業務

2 公害の経験から学び、未来を創る市民を育てる

- 1. 公害教育・研修センター機能の強化**
 - 1) 講師派遣・研修受入(自主財源)
 - 2) 学校教育(自主財源)
 - 3) 教材開発および研修メニューの整備(助成元:地域環境基金、自主財源)
- 2. 西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)の運営**
 - 1) 資料館運営(自主財源)
 - 2) 公害資料館連携(自主財源)
 - 3) 各地の公害地域の資料整理を支援する(自主事業)

3 公害経験を伝える国際交流

- 1. 大気汚染経験等情報発信業務(請負元:環境省)**

※実行委員事務局として実施しているものを含む

財政状況

(2023年4月1日～
2024年3月31日)

収入		支出	
資産運用益	3,421,310	事業費	27,619,150
会費	1,092,000	管理費	6,286,720
受託金等	21,360,050	積立金取得支出	29,800
寄付金	1,572,097	投資有価証券取得支出	1,270,800
雑収入	6,595,327	合計	35,206,470
基本財産取崩収入	0	当期収支差額	-1,135,640
積立金取崩収入	30,046	前期繰越収支差額	12,484,914
貸付金・保証金戻収入	0	次期繰越収支差額	11,349,274
合計	34,070,830		

(単位:円)

りべら No.165 2024年6月号(年3回発行)

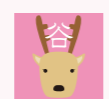
発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:谷内久美子

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザインハウス
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



編集後記



哲学者のハンナ・アーレントは、人間の条件は「労働」「仕事」「活動」にあり、近代社会は「労働」のみを重視し、人間はいまや動物化の危機に直面していると警告しています。あおぞら財団での多くの仕事は、人間を自由にするための「活動」であるなあと思いつつ日々取り組んでいます。

研究者から ひとこと



谷内 久美子

動画を作成する機会が増えています。撮影や編集は西淀川在住の岸本景子監督にお願いしています。わかりやすく、見ごたえのある映像作品になっていると思います。それでも、視聴回数が伸びなかったり、なかなか難しいものです。ユーチューバーと名乗れるように、がんばります!



藤江 徹

2024年1月にインドに行きました。大気汚染が深刻化している首都デリーで、経済成長を続ける街の喧噪に圧倒されつつ、美味しくカレーを食べてました。国が違えば文化も違う、を実感し、何をどうしたものかと途方に暮れつつ、帰国後はインド映画にハマっています。



鎗山 善理子

西淀川区民まつりで、千船病院さんのブースで撮影してもらいました～
2023年度もあっという間に過ぎ去りました。コロナ禍前の状態に一気に戻りつつある中、駆け抜けた1年でした。やっぱり、リアルで会ったり、しゃべったりは大切だなと実感。

3つの分野の紹介



それぞれの分野から2023年度の主な事業成果を報告いたします。主な事業以外のすべての事業について網羅的に記載している詳細な事業報告は、あおぞら財団のホームページに掲載しています。



<http://aozora.or.jp/johou>